

2023.11.3金祝—12.13水

大河ドラマ

とある家康

NHK大河ドラマ特別展

どうする家康

LEYASU

DOSURU



What will you do,

leyasu?



重慶文化財(金華具足(伊平礼,長井成利,丸具足))
 岐阜-江戶時代(16-17世紀), 今知山市國史博物館

【プレスリリースのお問合せ】 展覧会担当：高橋・大石 広報担当：大庭・岡田

静岡市美術館
SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F
tel. 054-273-1515 (代表) fax. 054-273-1518 www.shizubi.jp

NHK 大河ドラマ特別展 「**どうする家康**」

戦国乱世に次々と起こる予期せぬ出来事に逃げることなく答えを出し続け、泰平の世の礎を築いた徳川家康。今年放送中の大河ドラマ「どうする家康」と連動して開催する本展は、「どうする？」をキーワードに家康の生涯において重要なターニングポイントとなった合戦や出来事の数々を、豊富な資料を通して紐解いていきます。また、家康の前に立ちはだかり、重要な決断を迫った武田信玄、織田信長、豊臣秀吉をはじめ、酒井忠次、本多忠勝、榊原康政ら「徳川四天王」に代表される家臣団の精鋭たちゆかりの肖像画、武具、文書なども数多く展観。さらに家康自身が愛用した甲冑や刀剣、駿府で暮らした晩年に使用した茶道具、香道具、文房具といった手沢品の数々も紹介します。国宝・重要文化財を多数含む 110 点余りの作品を通して、誕生から歿後に東照大権現として祀られるまでの足跡を辿るとともに、その真の姿を浮き彫りにします。

開催概要

■開催期間 2023 年 11 月 3 日(金・祝)－12 月 13 日(水) 【全 40 日間】

※会期中、一部展示替えがあります。

■休館日 11 月 20 日(月)

■開館時間 10:00－19:00 (展示室入場は閉館の 30 分前まで)

■観覧料 一般 1,500 (1,300) 円、大高生・70 歳以上 1,100 (900) 円、中学生以下無料

*リピーター割引：2 回目以降、美術館窓口にて本展の有料観覧券半券提示で当日券 200 円引き

* () 内は前売および 20 名以上の団体料金 (団体券は来館当日に限り購入可能)

*障がい者手帳等をご持参の方および必要な付添の方原則 1 名は無料

■前売券 8 月 11 日(金・祝) から 11 月 2 日(木) まで販売

静岡市美術館 (窓口 11/1 まで、オンラインチケット)、ローソンチケット [L コード：42299]、セブンチケット [セブンコード：101-228]、チケットぴあ [P コード：686-516]、谷島屋 (パルシェ店、マークイズ静岡店、流通通り店)、MARUZEN & ジュンク堂書店新静岡店、戸田書店江尻台店、大丸松坂屋静岡店友の会、中日新聞販売店

■主催等 主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、NHK 静岡放送局、NHK エンタープライズ中部、中日新聞東海本社

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会

協賛：凸版印刷、ハウス食品グループ 制作協力：NHK プロモーション

みどころ

1. 今年最大級の徳川家康展を、第 2 の故郷・静岡で開催！

竹千代と名乗った幼少期から駿府城で世を去るまでの生涯の中で、およそ 1/3 にあたる 25 年間に駿府の地で過ごした徳川家康。国内各地から集めた 110 点余りの一級資料の数々を通して、大河ドラマとは異なる視点から家康の事績を検証し、その実像に迫ります。

2. 信玄、信長、秀吉、徳川四天王ゆかりの名宝も大集結

武田信玄・勝頼、織田信長、豊臣秀吉ら家康に幾多の試練を与えた武将たちの肖像画やゆかりの品々をはじめ、長篠の戦い、小牧・長久手の戦い、大坂の陣など家康の転機となった合戦の様子を描いた絵画資料の数々も紹介します。また家康の活躍を支えた三河以来の有能な家臣団を代表し、「徳川四天王」に数えられる酒井忠次、本多忠勝、榊原康政らが愛用した武具などもご覧いただきます。

3. しずび史上最多！国宝・重要文化財およそ 50 点を含む名品の数々を一堂に展観

国宝 6 点、重要文化財約 45 点を筆頭に、県・市指定の文化財も多数含む貴重な資料が一堂に会します。

なかでも関ヶ原の合戦で着用し、大坂の陣でも身近に置いたと伝わる徳川家吉祥の鎧《齒朶具足》や、刀剣、装束、調度品など静岡会場限定出品の遺愛品の数々は必見です。

第1章 家康誕生－今川からの独立と三河平定

天文11年(1542)12月26日、岡崎城に一人の男子が誕生しました。幼名・松平竹千代、徳川家康です。

当時の松平氏は、西の織田氏・東の今川氏に挟まれた三河国の一領主にすぎませんでした。

竹千代は駿府で幼少期を過ごし、元服して元信、ついで元康と名乗ります。このように今川義元から一字を拝領した元康は、順調にいけば今川領国の西端を統治する有力武将のひとりとして生涯を終えるはずでした。

ところが永禄3年(1560)、図らずも義元が桶狭間で討死したことで、元康は最初の「どうする？」に直面します。これを機に尾張の織田信長と同盟を結び、今川氏に反旗を翻した元康は家康と改名し自立する決断を下しました。

三河一向一揆との対立では家臣団分裂の危機を乗り越え、次第に西三河から東三河へと勢力を拡大します。

そして永禄9年(1566)、同国内の今川氏最後の拠点攻略した家康は、念願の三河統一を果たしたのです。

同年、関白・近衛前久の取り計らいで従五位下三河守に叙任されると、松平から徳川に改姓。名実ともに一国の大名となった家康は、強大な存在である武田氏と対峙していくことになります。



松平家待望のお世継ぎ誕生

和歌山県指定文化財 住吉如慶《東照宮縁起絵巻 第一巻》 正保3年(1646) 紀州東照宮〔会期中巻替〕

(誕生)

今川義元から贈られた着初めの鎧



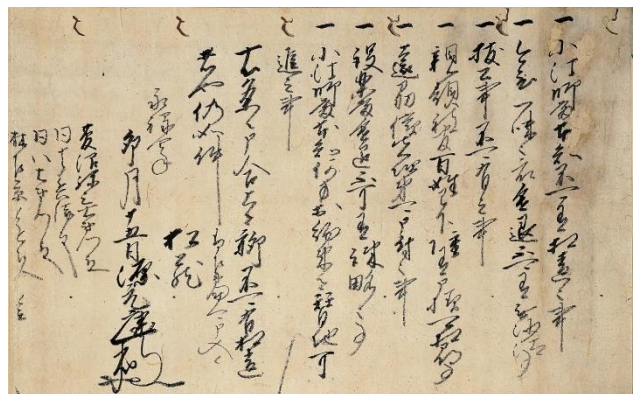
静岡県指定文化財《紅糸威腹巻》 室町時代(16世紀) 静岡浅間神社〔通期〕

覇者たちの手を渡り歩いた名刀



重要文化財《刀 金象嵌銘 永禄三年五月十九日 義元討捕刻彼所持刀 織田尾張守信長(名物義元左文字)》 南北朝時代(14世紀) 建勲神社〔11/3-11/19〕

家康二十歳の筆跡
字はそれほど
上手くない？



《松平元康覚書》 永禄4年(1561) 久能山東照宮博物館〔通期〕

第2章 戦国乱世の選択－今川・武田との抗争

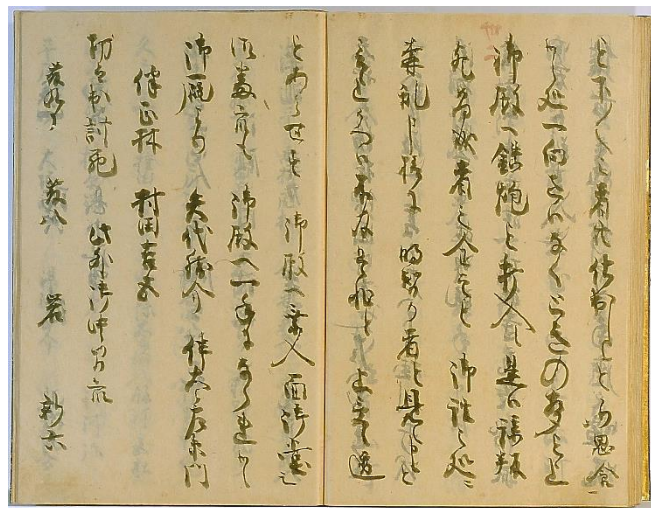
三河平定を成し遂げ、遠江へと進出した家康の前に強大な敵として立ちはだかったのが、甲斐の武田信玄でした。当初は信玄と協調し今川氏を滅亡させますが、両者の関係は徐々に悪化し、ついには敵対することになります。元龜3年(1573)、三方ヶ原の戦いで家康は信玄に大敗を喫し、さらに武田軍が美濃から三河に侵攻したことで、徳川家は危機的な状況に陥ります。ところが信玄の急死により武田軍が撤退し、窮地を脱することができました。そして天正3年(1575)の長篠の戦いで、織田・徳川軍は信玄の跡を継いだ勝頼が率いる武田軍に勝利を取めます。しかしその後も武田氏との争いは続き、高天神城の攻防など遠江を巡って幾度となく戦いが繰り返されました。その過程では、武田氏との内通の嫌疑で正室築山殿と長男信康を処罰するという非情な決断も強いられましたのです。やがて訪れた天正10年(1582)は、武田氏の滅亡、そして本能寺の変と、徳川家にとっても激動の年となります。信長亡き後の動乱で武田旧領の掌握に成功した家康は、三河、遠江、駿河に甲斐、信濃を加えた五か国を統治する大大名へと飛躍しました。しかしその統治は盤石ではなく、信長の後継者争いに勝利した羽柴(豊臣)秀吉との関係も、徐々にひずみを生じていくことになります。

長篠で武田勝頼軍を撃破！
初期合戦図屏風の貴重な作例



《長篠合戦図屏風》江戸時代(17世紀) 名古屋博物館 [11/3-11/19]

「是非に及ばず」
本能寺での信長の劇的な最期



重要文化財 太田牛一《信長公記 第十五巻》江戸時代(17世紀)
建勲神社 [11/21-12/13]

家康に数々の決断を迫った織田信長の姿



重要文化財 狩野元秀(宗秀)
《織田信長像》桃山時代(16世紀)
長興寺 [11/3-11/16]



狩野永徳《織田信長像》
天正12年(1584) 大徳寺
[11/17-12/13]

第3章 豊臣大名徳川氏－豊臣政権下の家康

天正 10 年(1582)の本能寺の変後、信長が進めた天下統一事業の継承者としての地位を確立した羽柴(豊臣)秀吉。一方で家康は信長の次男・織田信雄の要請を受けて秀吉に対抗し、両者は小牧・長久手の戦いで衝突します。

この合戦では徳川四天王に代表される勇猛な家臣団が活躍し、局地戦では徳川方が勝利を収めますが、秀吉の優位で戦況は進み、先に信雄が和睦したことで家康も引き下がらざるを得ませんでした。

その翌年に関白となった秀吉は、妹の朝日姫を家康のもとに嫁がせ、生母大政所も岡崎に送って懐柔を図ります。

ついに上洛要請に応じた家康は、大坂城で秀吉に謁見して臣下の礼をとり、豊臣政権下の一大名となりました。

天正 18 年(1590)の小田原征伐に参陣した家康は、戦後、北条氏旧領であった関東への移封を命じられます。これに従い江戸に拠点を移し、その後も文禄元年(1592)の朝鮮出兵では肥前名護屋に出陣するなど秀吉の命で転戦します。やがて秀吉に死期が迫ると、その意を酌んで幼少の秀頼に対し忠誠を誓う起請文を提出し、豊臣政権の重鎮としての役割を果たしました。本章では試練の家康を支えた「徳川四天王」の武具なども紹介します。

犬山藩主成瀬家伝来
長久手合戦屏風の傑作



犬山市指定文化財《長久手合戦図屏風(正本)》江戸時代(17 世紀) 犬山城白帝文庫 [11/21-12/13]



《聚楽第図屏風》桃山時代(16 世紀) 三井記念美術館 [11/3-11/19]

在りし日の聚楽第



重要文化財 玄圃霊三・惟杏永哲賛
《豊臣秀吉像》慶長 5 年(1600)賛
天台真盛宗総本山西教寺 [11/3-11/19]

秀吉関白就任の祝賀能か



《観能図屏風》江戸時代(17 世紀) 神戸市立博物館 [11/21-12/13]

第4章 天下人への道－関ヶ原から江戸開府

慶長3年(1598)8月に豊臣秀吉が世を去ると、天下は再び動乱の兆しを見せ始めます。秀吉の遺命に背き諸大名との姻戚関係の拡大を図った家康は、石田三成ら豊臣恩顧の奉行たちとの間に軋轢を生みます。やがて三成を失脚させた家康は、秀頼を後見する立場となって大坂城西の丸に入り政治の主導権を握りました。

慶長5年(1600)6月、五大老のひとりであった上杉景勝に謀反の嫌疑をかけて討伐を宣言すると、会津に向けて出陣。その隙を衝いて三成が挙兵し、反徳川派の奉行が家康を糾弾する「内府ちがいの条々」を各地の諸将に送ります。そして家康重臣の鳥居元忠らが守る伏見城を陥落させたことで、ついに合戦の火蓋が切られました。

三成挙兵の報せを受けた家康は、直ちに西上することを決断。天下を二分した争いが全国に飛び火する中、9月15日ついに両軍が美濃関ヶ原で激突します。一進一退の攻防が繰り返されますが、小早川秀秋らの離反により西軍は総崩れとなり、「天下分け目」と呼ばれる関ヶ原の合戦はわずか一日で東軍の勝利に終わりました。

戦後は西軍に加担した反対勢力を減封・改易する一方、自らに味方した諸将への再配分と大規模な国替えを断行。そして慶長8年(1603)2月、征夷大將軍に任じられた家康は、名実ともに天下人として歩み始めます。



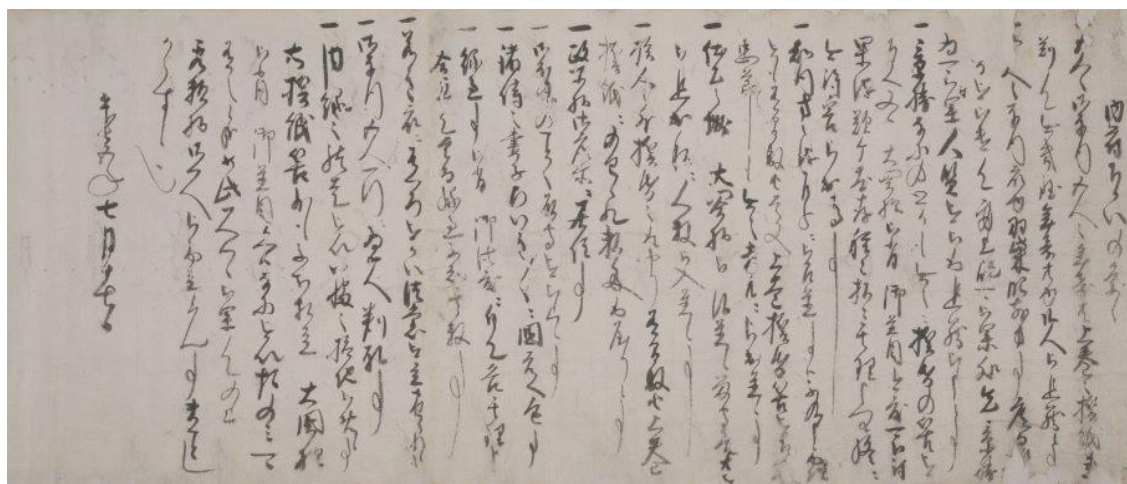
戦場に輝く金の扇

《金扇馬標》桃山－江戸時代(16－17世紀) 久能山東照宮博物館〔通期〕



関ヶ原で着用 徳川家吉祥の具足

重要文化財《齒染具足(伊予札黒糸威胴丸具足)》
桃山－江戸時代(16－17世紀) 久能山東照宮博物館〔通期〕



糾弾される家康、どうする？

《内府ちがいの条々》
慶長5年(1600)7月17日
大阪歴史博物館〔通期〕

第5章 大御所時代－駿府の生活と大坂の陣

慶長8年(1603)2月、家康は朝廷から征夷大將軍に任じられ、江戸に幕府を開きます。ところがわずか2年でその座を三男の秀忠に譲り、將軍職は徳川家が世襲していくことを世に示しました。

大御所となった家康は、慶長12年(1607)に江戸から駿府へと活動の拠点を移します。しかしその後も秀忠の後ろ盾として着実に幕府の基礎を固めていきます。例えば東南アジア、スペイン、オランダ、イギリスなど諸外国との交易や、寺社の統制といった重要な政治案件には、家康自ら深く関与したといえます。

その一方で、鑄造させた銅活字による出版事業を駿府城下で着手したほか、和漢の古典籍の蒐集、漢方薬や香木の調合にも熱心に取り組んでいたことが、久能山東照宮をはじめ尾張・紀州・水戸の御三家に伝来した遺愛の品々を通して垣間見ることができます。

そのような中で最大の懸案だったのは、大坂の豊臣家の存在でした。方広寺大仏殿鐘銘事件に端を発した大坂の陣では、家康自ら大軍を率いて出陣。そして慶長20年(1615)5月8日、秀頼と淀殿の自刃とともに大坂城は落城し、豊臣氏は滅亡しました。ここに長く続いた戦乱の世が終わり、徳川幕府による泰平の世が幕を開けたのです。

天下泰平へのラストパート



和歌山県指定文化財 住吉如慶《東照宮縁起絵巻 第二巻》正保3年(1646) 紀州東照宮〔会期中巻替〕

(大坂陣)

洗練された粋なデザイン



重要文化財《白練緯地松皮菱竹模様小袖》
桃山－江戸時代(16－17世紀) 東京国立博物館〔11/3－11/16〕
Image: TNM Image Archives

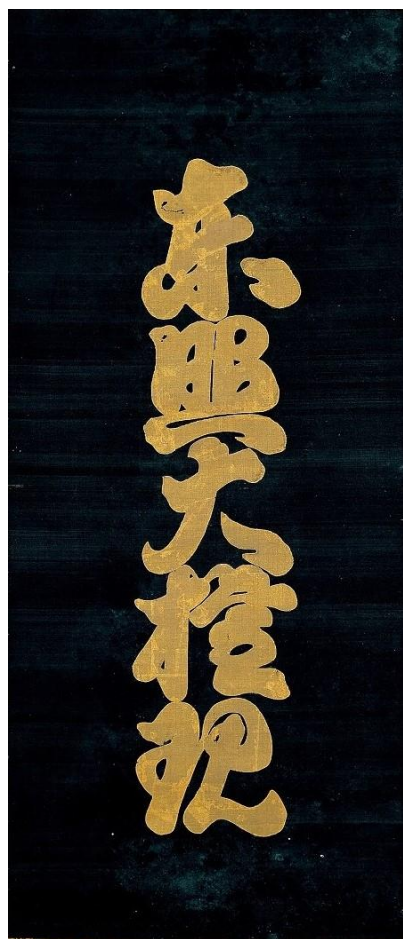
駿府で進められた出版事業



重要文化財《駿河版銅活字》
慶長11－元和2年(1606－1616)
凸版印刷株式会社 印刷博物館〔通期〕

第6章 東照大権現一家康、神となる

豊臣家の終焉を見届けた家康は、京都で戦後処理を済ませた後、駿府に帰り鷹狩などを楽しむ日々を送ります。ところが翌元和2年(1616)2月に鷹狩の最中に発病し、4月17日、駿府城で生涯を閉じました。遺命に従い亡骸はその夜のうちに久能山に遷され丁重に埋葬されましたが、間もなく南光坊天海と以心崇伝の間で家康の神号を巡って論争が起こります。崇伝が推す明神号か、天海が主張する権現号か―やがて将軍秀忠の裁定により権現号で勅許を奏請することで決着し、朝廷から提示された案の中から「東照大権現」が選ばれました。こうした神格化への動きと並行して進められたのが、家康の廟所を祀る東照社の造営でした。久能山の社殿は完成後、元和3年(1617)12月に後水尾天皇の勅使を迎えて正遷宮が行われましたが、それに先立ち、天海や幕府重臣たちによって家康の神柩は久能山から下野の日光山へと遷されています。日光山にも秀忠、三代将軍家光の指示で壮麗な社殿が整備され、家康は久能山と日光山のほか各地に勧請されて神として祀られるに至ったのです。本章では、久能山東照宮において御神体同然として祀られてきた家康晩年の愛刀や、秀忠が久能山正遷宮に際し奉納した太刀などを通して、家康はいかにして神となったかを紹介します。



《後水尾天皇宸翰神号「東照大権現」》
江戸時代(17世紀) 久能山東照宮博物館
[11/3-11/19]

後水尾天皇が揮毫した神号



《東照大権現靈夢像》正保3年(1646)
国立歴史民俗博物館 [通期]

家光の夢に現れた家康の姿



国宝《太刀 銘 真恒》
平安時代(12世紀)
久能山東照宮博物館 [通期]

神となった家康に捧げられた太刀

徳川家鎮護の願いを込めた愛刀



重要文化財《太刀 無銘 光世 切付銘 妙純伝持ソハヤノツルキ ウツスナリ》鎌倉時代(13世紀) 久能山東照宮博物館 [11/21-12/13]

関連事業

1. 記念講演会「家康を育んだ駿府、駿府を発展させた家康」

日時 | 11月5日(日) 14:00-15:30 (開場 13:30)

講師 | 小和田哲男氏 (静岡大学名誉教授・大河ドラマ時代考証)

会場 | 当館多目的室 参加料 | 無料 定員 | 60名 (予定、応募多数の場合は抽選)

申込締切 | 10月19日(木)必着

申込方法 | 当館 HP 申込フォーム (www.shizubi.jp) または往復はがきにて。1件につき2名様まで。

※往復はがき記載事項 ①催事名、催事日 ②氏名 (参加人数分) ③年齢 ④住所 (郵便番号から) ⑤電話番号、
返信面に宛先を記入の上、静岡市美術館まで。※抽選の如何にかかわらず結果は通知いたします。

2. 連続講座

①「あなたの知らない 本多忠勝所用品のはなし」

日時 | 11月19日(日)

講師 | 湯谷翔悟氏 (岡崎市美術博物館学芸員)

②「戦国武将・松平家忠の日記を読む」

日時 | 11月25日(土)

講師 | 鈴木将典氏 (静岡市歴史博物館学芸員)

③「遺愛品にみる家康の素顔」

日時 | 12月3日(日)

講師 | 当館学芸員

いずれも 14:00-15:00 (開場 13:30) *申込不要、先着順 (各回当日 10:30 より整理券配布)

会場 | 当館多目的室 参加料 | 無料 定員 | 各回 60名 (予定)

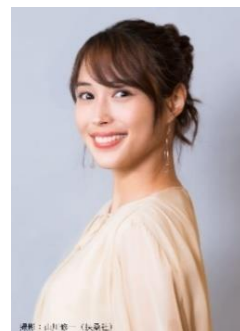
その他、様々なイベント、本展限定の販売グッズを予定しています。
詳細は当館ホームページ (www.shizubi.jp) で決定次第お知らせします。

音声ガイド

ナビゲーター：広瀬アリスさん

大河ドラマ「どうする家康」で於愛の方を演じる静岡市出身の俳優・広瀬アリスさんが、展示作品の魅力を丁寧に紹介します。

貸出料金：お1人様1台 650円 (税込)



同時開催

■どうする家康 静岡 大河ドラマ館

会期：2023 年 1 月 27 日(金)－2024 年 1 月 28 日(日)

問合せ：tel. 054-297-5111 静岡市葵区宮ヶ崎町 102（静岡浅間神社境内）

■静岡市歴史博物館 企画展「駿府城と徳川家康」

会期：10 月 28 日(土)－12 月 10 日(日)

問合せ：tel.054-204-1005 静岡市葵区追手町 4－16

アクセス

電 車 JR 静岡駅北口より地下道を利用して徒歩 3 分
静岡鉄道新静岡駅より徒歩 5 分

新幹線 東京駅・名古屋駅から東海道新幹線ひかり号で約 1 時間
新大阪駅から東海道新幹線ひかり号で約 2 時間

車 東名静岡 IC より約 15 分
※お車でお越しの際は、近隣の駐車場をご利用ください。

空 路 富士山静岡空港より静鉄バス（静岡エアポートライナー）
で約 1 時間

